

吟剣詩苑

g i n k e n s h i b u

吟剣詩舞の
故郷シリーズ1「城」

「鶴ヶ城」
(福島県)

詩舞を国語でわかりやすく
見城星梅月さんが
源氏物語を舞う

全国少壮吟詠家
選考審査会「選考会」開催

表紙の詩

大楠公 徳川景山

豹は死して皮を留む豈偶然ならんや

湊川の遺跡水天に連る

人生限り有り名は尽くる無し

楠氏の精忠万古に伝う

8

令和5年
某月

詩舞を国語でわかりやすく

見城星梅月さんが 源氏物語を舞う

剣詩舞スパーチームの見城星梅月さんが、

国語教師の橘茉莉さんとタグを組んで、

吟剣詩舞や日本の古典の魅力をわかりやすく発信する

「詩舞×国語」のイベントが東京深川のお寺で開催されました。

コロナ禍にオンラインで活動を始めた二人が、

挑むリアル開催はこれで三回目。

今回のテーマは『源氏物語』です。

【日時】令和5年6月4日(日)

【場所】東京都江東区三聖山慧然寺

【主催】見城星梅月／橘茉莉(国語教師・香師)



会場となったのは東京都江東区深川にある三聖山慧然寺

日本の文学と芸術で非認知能力を養う 詩舞と国語の解説（舞の体験付き）



私立高校国語教師である橋 菜理さんがテーマとなる源氏物語の世界をわかりやすく解説

吟剣詩舞に初めて接するという人にもその素晴らしさをもつと感じてもらえたらと、演題となる詩歌の内容や時代背景をわかりやすく説明してくれる専門家を捜していた見城星梅月さん。そして日本文化に関する発信を行っていた私立高校現役国語教師の橋 菜理さん。共通の知人を介して二人が出会い、コラボレーションにより始まったのがこの「詩舞×国語」イベントです。

コロナ禍にあつてインターネットによるオンライン開催が中心でしたが、万全の感染対策のうえこれまで令和二年に東京で、翌三年に静岡で参加者を集めた実際のイベントを開催しています。

コロナ禍が一段落して初めてとなる「リアル」開催。東京都の深川にある臨済宗のお寺、三聖山慧然寺を会場とする第三回目のテーマは、来年のNHK大河ドラマの主人公、紫式部による源氏物語です。開始時間の午後2時30分、お寺の広い本堂には、多くの来場者が集まりました。

イベントはテーマとなる作品の解説、詩舞の鑑賞、参加者の詩舞体験という構成となっていますが、来場客はネットの告知に応じた一般の方々です。まずは見城さんが「吟剣詩舞とは」を紹介。そしていよいよ本題へと入り、橋さんが源氏物語について解説を始



『和歌・袖ぬるる』では、光源氏との逢瀬が遠のき恋に悩む六条御息所を舞う



『恨めしの』では、生き霊となった鬼気迫る六条御息所を表現

めます。

54帖からなり70年あまりの出来事を書き綴った長大な源氏物語の中から題材に選ばれたのは、六条御息所のエピソードです。六条御息所は物語の初期より登場する高貴な

女性で、主人公・光源氏の恋人。しかし美しく知性に優れ誇り高い彼女を持てあますようになり、次第に源氏の足は遠のきます。一方で源氏にのめり込み、独占欲とプライドの板挟みに苦しむ六条御息所。光源氏を取り巻く多くの登場人物や、それぞれの複雑な間柄などを織り込みながら、現代にも通じる微妙な男女間の機微を鮮やかに描く物語の世界が解説されます。

これを受けて、作品中、六条御息所が詠んだ『和歌・袖ぬるる』を演題に、見城星梅月さんが詩舞を披露。源氏に惹かれた始めた頃の恥じらいや、泥沼のような恋に下り立った愚かな毎回、テーマにちなんだお酒が振る舞われ、香師の橋さんが調合したお香がプレゼントされるこのイベント。今回は源氏物語絵巻のバリエーションがなされた日本酒が



自分を責める気持ちなどを表現します。そして次は、源氏の正妻である葵の上とトラブルになり、我が身を焦がす恨みから、心ならずも生き霊となり禍をなすことになる六条御息所。雅びな舞台から一転、激しいネガティブな感情に駆られる側面もある人間の深い業をも表現する物語を解説。さらにエピソードをもとに二人で共作した地唄『恨めしの』による詩舞が披露されました。

きれいなだけではない奥深い魅力を湛える源氏物語のわかりやすく丁寧な解説と、物語の背景を理解し、たうえで鑑賞する美しくそして凄絶な詩舞。圧倒的な舞台上、客席は一遍の長編映画でも見終えた後のような雰囲気になった。イベントはその後、休憩を挟んで参加者による感想発表、次いで扇子を使つての詩舞体験が行われ、午後5時前にはすべてのプログラムを終了。満を持したリアル開催は盛況のうち幕を閉じたのでした。



リアル開催も3回目となり、お互いの考えることが事前に想像できるようにするなど、阿吽の呼吸となってきた二人。「私たちのごちなさも少し取れてきたのか、参加者の皆さんが積極的に意見を言うようになって有り難いと思いました。このイベントは吟剣詩舞の普及が目的ですが、私自身の修行としても大切なものとなっております。見城星梅月さん（左）、準備を始めてから、とんでもないテーマを選んでしまったと（笑）。やはり源氏物語は生半可な気持ちでは向き合えません。今日は精一杯ですが「わかりやすかった」と言われてほっとしています」橋 菜理さん（右）



今回は二人と交流のあるフィンランド生涯教育研究家の石原侑美さんが司会進行を担当

参加型の詩舞体験コーナーでは、扇子を使った詩心の表現や、技に挑戦